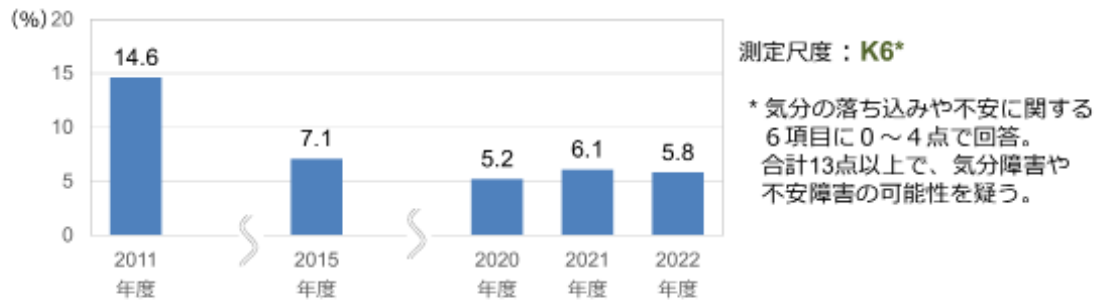
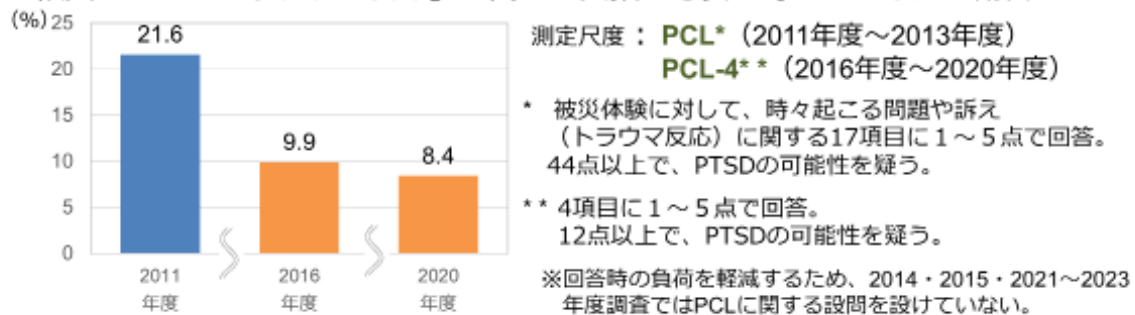


【一般（16歳以上）のこころの健康度】

●気分の落ち込みや不安に関して支援が必要と考えられる人の割合



●被災で生じた「トラウマ反応」に関して支援が必要と考えられる人の割合



第45、52・53・56回福島県「県民健康調査」検討委員会資料より作成

一般（16歳以上）のこころの健康度を評価する尺度としてK 6¹を用いています。2011年度は14.6%と高く、その後は低下（改善）傾向がみられました。2021年度にわずかに上昇（悪化）したものの、再び低下（改善）しました。日本の先行研究（川上ら、2007）における割合（3.0%）と比較すると、依然として高い（悪い）値を示しています。

性別では、男性より女性の方が高い傾向にありました。

また一般（16歳以上）のトラウマ反応を評価する尺度としてPCL²を用いています。2011年度調査と比較して大きく低下（改善）していましたが、2020年度では、8.4%の方が強いトラウマ反応を持っていることがわかります。

性別では、男性より女性の方が高い値を示し、年齢別では年代が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

1. K 6：気分の落ち込みや不安に関する6項目（例：「神経過敏に感じましたか」「絶望的だと感じましたか」等）について、それぞれ過去30日間の頻度を尋ねた質問で、16歳以上を対象に実施しています。この尺度によって気分障害や不安障害の可能性について判定しました。
2. PCL（Post Traumatic Stress Disorder Checklist）：被災体験に関連した過去30日間の心身の反応（トラウマ反応）を尋ねた質問で、K 6と同様に16歳以上を対象に実施しています。この尺度によって、トラウマ反応の強さについて判定しました。2011～2013年度調査後、2年間の休止を経て、短縮版であるPCL-4を2016～2020年度に実施し、2021年度から再び休止しています。

本資料への収録日：2015年3月31日

改訂日：2026年3月31日